

広島大学病院

Hiroshima University Hospital Medical-Dental Liaison News

No. 13
2008. 6

ニュース



副院長ごあいさつ

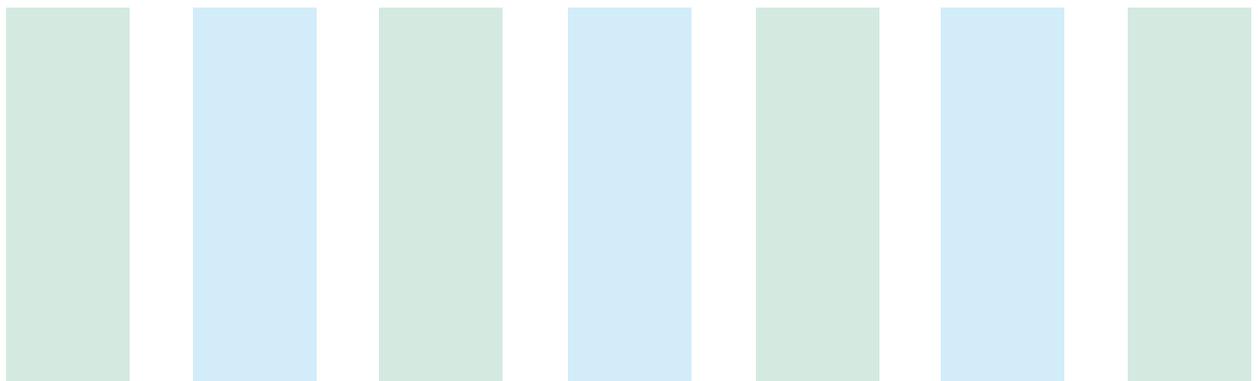
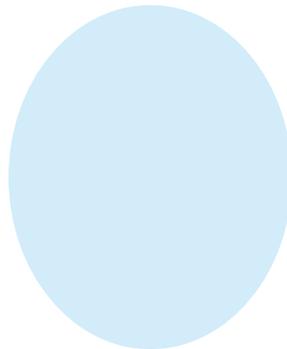
2008年3月から医療支援担当の副院長を命ぜられました。そこで主に病院の診療を裏から支える立場でご挨拶申し上げます。

現在の医療は極めて多面的で制約も多く、その一方できめ細かい自助努力も必要です。特に経営基盤を安定させるためには医療材料や薬剤の購入から、在庫管理などに相当の気配りと努力が求められます。また病院情報システムの構築と連携が在庫管理と物品供給の支援システムとして、きちんと作動することがこれには不可欠です。

病院給食は、単に入院患者に食事を提供するという事に留まらず、多くの方々にとって食事は入院中の数少ない楽しみでもありますので、同じ食材でも楽しんでおいしく召し上がっていただくための努力と工夫が必要です。また食の安全という今日的課題からも極めて重要で、食材選びから調理、配膳まで人の目と手による調整と観察が欠かせません。こうした点に気を配りながら病院の医療が安全に遂行できるよう心懸けて参ります。

副院長
河本 昌志

平成20年度



インタビューしました!



2008年1月16日付けで当院放射線治療部長に就任された永田 靖(ながた やすし)先生にインタビューしました。



永田 靖教授

先生は京都市のご出身で、京都大学病院で長らく「がんに対する放射線治療」の研究・診療・教育を行ってこられました。近年のがん治療における放射線治療の重要性に基づき、2007年9月、当院に新設された放射線治療部の初代部長・教授として就任されました。



放射線治療スタッフの皆さん

近年の放射線治療の状況はどのようなものでしょうか?

放射線治療は、手術療法、抗がん剤治療とともにがん治療の3本柱として以前より重要な役割を果たしてきました。ただわが国では、すべてのがんの患者さんの約25%が放射線治療を受けているのみで、全がんの60%近くの患者さんが放射線治療を受けている米国と比較して、まだまだ認知度が低いようです。これは、わが国において放射線治療を専門に行う放射線腫瘍医の数がまだまだ少なかったこと、がん治療の中での放射線治療に対する評価がまだまだ低かったことによると思われます。

その中で、最近のX線CTやMRIを初めとする画像診断技術の発達と、コンピュータ技術の進歩によって、生体内の正確な3次元線量分布計算が可能となり、より高精度の放射線治療計画が可能となりました。

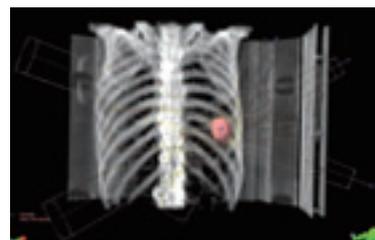
また一方では、機械工学の進歩により原体(げんたい)照射、三次元照射、定位放射線照射(ピンポイント照射)、強度変調放射線治療などの種々の治療技術が編み出されてきました。これらの照射法や照射装置のいくつかは、わが国でオリジナル開発されたものであり、わが国の放射線治療技術は世界の最先端を走っています。

広島県における放射線治療の状況はどうでしょうか?

広島県内には、非常に優秀な放射線治療医、放射線治療技師の方がたくさんおられ、日本放射線腫瘍学会の専門認定医数でも、中国四国管内でNo.1です。しかし、昨今の急速なる放射線治療対象患者数の増加の状況下では、まだまだ不足していると言わざるを得ないため、本院に着任いたしました私は、放射線治療部のスタッフとともに、本学の医学生、研修医、放射線治療医、放射線科医、本院の放射線治療技師、がん専門看護師を育ててゆくことに力を注ぎたいと思っております。

先生の診療についての方針は?

放射線治療は他診療科の先生がたととの緊密な連携が非常に重要であり、院内のさまざまな診療科の先生がたと相談しながら、がんの診療を進めていきたいと考えております。また広島県内には、本院以外にも、がん治療や放射線治療を積極的に行っている病院がたくさんあると伺っております。今後は関連病院の先生がたと相談しながら、機能的な放射線治療ネットワークを構築できればと考えております。その中で、前立腺がんや頭頸部がん、脳腫瘍に対する強度変調放射線治療をできるだけ早期に開始できればと、現在準備を進めています。



肺がんに対するピンポイント照射
がん集中して放射線を照射するために、高い局所制御率と少ない副作用が期待できます。

インタビューしまし

今後の活躍が期待される男性看護師のみなさん

正確な人数は覚えていませんが、4～5人くらいだったと思います。

偏見というよりは、男性看護師の働く場所が手術室や精神科などと限られていたことと、男性看護師というだけで、女性患者さんの処置ができなかったことですね。後者については現在でもありますから、男性看護師の永遠のテーマでしょうかね～。

現在、男性看護師が増え続けていますが、このことについてどのようにお考えですか？

男性看護師の存在が増えることで、看護師不足の解消と看護の質向上につながれば、非常に嬉しいですね。

なんでもです。患者さんの立場によっては女性看護師より共感、共有できることもあると思います。職場での考え方の偏りが少なくなると思います。

当院での男性看護師の割合は、どれくらいが理想と思われますか？

世の中の男女比が1:1ならば、看護師の男女の割合も1:1がいいと思います。

一昔前は男性看護師が少なく偏見がありがちだと思われませんが、少なかったゆえ、大切にされていた面もあったと思いますので、その点は、ちょっと微妙ですね。

集中治療病棟の看護師のみなさん
新谷師長理想の割合になるまで、あと一歩！

